

第7回 子育てメッセこがねい 報告集

2020年9月27日(日) 13:30~16:00
東小金井駅開設記念会館マロンホールからオンライン配信

第7回 子育てメッセこがねい




2020.09.27 (日)
13:30-16:00
@Zoom

13:30 挨拶

13:40 のびのびの！サイト
子どもの居場所 サイト
説明

14:00 対談) 森本・水津
▶16:00 トークセッション)
森本・水津・市川・大久保・邦永

対談
もりもと たすく
森本 扶
埼玉大学・東京都立大学等
非常勤講師。子ども白書編集
委員長子どもの育ちを地域で
変えるシステムづくりをテー
マに研究。著者に『地域学習
の創造』(共著、東京大学出版
会)、『蠢動する子ども・若者』
(共著、本の泉社)



水津 由紀
小金井子育て・
子育て支援ネット
ワーク協議会
会長



考えよう！子どもの居場所のこと

いまの子どもの現状は？
小金井でどんなことができる？
子どものためにはどんなところが必要？
現場の声も聴きながら一緒に考えてみませんか

×

トークセッション

市川 明
まじプロ実行委員会 委員長

大久保 美千子
放課後子ども教室コーディネーター

邦永 洋子
NPO法人 こがねい子ども遊パーク

申込 9月26日までに事前申込制
問合せ 小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会 (事務局 石井)
☎080-4836-2865 ✉koganei.k.k.netwk@gmail.com

例年ですと、会場に皆さんにお越しいただき、学びの場・意見を出し合う場として開催しておりましたが、このコロナ下で同じような開催は難しく、対談・トークセッションを会場で行い、それをオンライン配信とさせて頂きました。当日は市内外から39名のZoom参加がありました。

のびのびーの！ サイト ・ 子どもの居場所サイト 説明



門馬 純

有限会社 スペースシップ 代表取締役
のびのびーの！・えにえにのサイト構築・
企画運営に携わって頂いている。

北脇 リエ

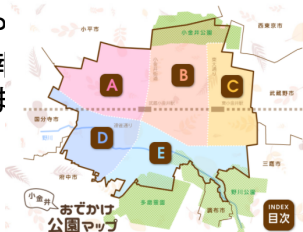
のびのびーの！・えにえにの編集長。

小金井子育て・子育て支援サイト 「のびのびーの！」 紹介

<https://nobinovino.net/>

小金井の子育てで外せない場所は、豊かな自然の中にある公園だよね～という声があって、新しいコンテンツ「小金井おでかけ公園マップ」を作りました♪

その他、ママ・パパのクチコミや体験談、おすすめ、イベント情報、子育て支援団体情報も載っています。ご活用ください。



NEW !

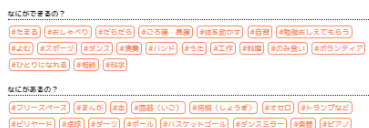
小金井子どもの居場所サイト「えにえに」 紹介

<https://anyany.nobinovino.net/>

子どもが「いまのきもち」「ここから近い場所で」などから自分の気持ちにあった場所を探せます。「くわしさがす」では、なにができるの？なにがあるの？いつやってるの？いくら？など、細かい項目に分かれてキーワード検索ができます。周りのお子さんにもこのサイトのことを教えてください。



くわしさがす



森本 扶先生より、子育てメッセ当日に使用する参考資料を頂きました。

考えよう！子どもの居場所のこと

森本 扶（埼玉大学・非常勤講師、『子ども白書』編集委員長）

👉 「居場所づくり」にとって大事な問い

- ・ 「居場所づくり」は「子どもの放課後の安心・安全」のためなのか？！
- ・ 大事な2つの問い

- ①親や大人や仲間との豊かなかかわりを通じて、愛され信頼され期待されていると実感できる空間
- ②おとなから自由な所で、仲間と自然とのかかわりでさまざまな体験を積み重ね、子どもどうしの自治能力を身に着けることができる空間

佐藤一子（2002）『子どもが育つ地域社会』東京大学出版会P.69

- ・ 地域子ども教室事業（2004年～3か年）の目的は、「地域の教育力の向上」だったはず

👉 「居場所」の伝統から分かること

- ・ 子どもが大人から少し離れたところで自治的に組織する空間と人間関係
例：子供組・若者組（若衆宿）、地域子ども会・青年団、異年齢遊び集団（ガキ大将集団）

- ①親や地域の人とのかかわりを通して、子どもが信頼されていると実感できる場であった
- ②子どもたちが大人から比較的自由なところで、自主的な力を発揮できる場であった
- ③異年齢集団の中で近い将来が見通せる場であった

- ・ 1960～70年代以降、急速に衰退／学校での生活指導、特別教室で代替？
- ・ 子ども・若者の生活や子どもの育ちという事が、領域をこえて教育も福祉も文化も含めて全体的にとらえられていく時代へ？

👉 「遊び」が持つ力

- ・ 本来の「居場所づくり」のためには、子どもの「遊び」が持つ意味についての共通理解がないといけない
- ・ 「遊び」が持つ力（大田堯、増山均など）

- ①総合的な人間形成力（身体、コミュニケーション、社会性、想像力など）
- ②魂の活性化（ドキドキ、ワクワク）
- ③精神的な「溜め」をつくる
- ④こころを癒す
- ⑤こころをひらく
- ⑥「憧れ」を見出す
- ⑦あてにし、あてにされる
- ⑧共同の「しごと」を生み出す

- ・ 「遊びを失った子どもは失業している」（大田堯）
- ・ 「遊び」のエッセンスがあふれた「居場所づくり」を
- ・ コロナ禍の中でより明確になった子どもの居場所の意味
- ・ 大人が生き生きと過ごしている場所は子どもたちにとっても居場所となりうる

👉 共同の子育ての場を提供するということ

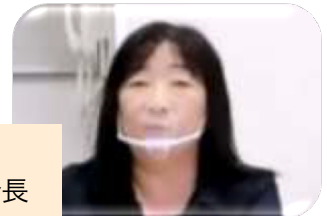
- ・ 子どもの生活の問題は、大人、特に保護者の生活にも関わること
- ・ 居場所づくりの場が「共同の子育ての場」のなるという視点

考えよう！子どもの居場所のこと

自己紹介&対談



森本 扶 さん
埼玉大学や東京都立大学等非常勤講師、子ども白書 編集委員長をされており、子どもの育ちを地域で支えるシステムづくりをテーマに研究もされています。



水津 由紀
小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会 会長

ご紹介ありがとうございます。

最近、国の施策でも居場所、居場所と言われてきています。それは何らかの困難を抱える子どもの避難場所としての考えもありますが、それに限らず、レジメを画面共有させていただきながら お話させていただきます。

「居場所づくり」にとって大事な問い

居場所のありかたが、子どもの安心・安全だけに偏り過ぎていないでしょうか？

大人に囲まれた、固定的な仲間達に限られた小さな集団で、安心・安全が先立って、信頼が置き去りにされている場になっていませんか。

本質は子どもたちが主体的に、大人と程よい関係が築ける場です。子ども同士の自治能力を身につける事ができる空間が大切です。自分たちの責任という形だけに囚われると、安心ばかりが優先されがちです。大きな協働の仕組みができると、信頼も生まれ、それが地域の教育力向上という概念につながるはずです。

「居場所」の伝統から分かること

昔は村社会で、子ども達が大人から少し離れたところで、自治的に組織する空間と人間関係がありました。それが無くなり都市化社会で大人の関わりが増えました。また、学校が居場所的なものの肩代わりを期待されるということもありますが、学校は成り立ちが異なりますので、居場所的なものになりにくいのも事実です。

居場所は、少し先の将来が見通せる場であること、まねる・憧れるということも大事です。学校地域協働活動という動きもあるので、学校と地域との連携も大事な課題でもあります。

「遊び」が持つ力

子どもの「遊び」の持つ意味は、生活すべてです。総合的な人間形成力を育みます。遊びについての共通理解がないと、居場所づくりはうまくいきません。遊びが持つ力はレジメにあるとおりですが、ワクワク・ドキドキ感 大事ですね。このコロナ禍、『集まれどうぶつの森』が流行る世の中です。無人島を開拓していく話なのですが、大人たちにも人気なのは、こんな居場所づくりが求められているのではないのでしょうか。遊びで発散した後は、心がスッキリするので、相談はその後にするなどの話もあります。しんどい家庭にとっては、より辛い毎日です。失敗も含めたいろいろなことを、皆で共有し合うという意味は大きく、必要とされています。

共同の子育ての場を提供するという事

「遊び」のエッセンスがあふれる居場所が、「共同の子育ての場」になるという視点で、オープンアクセスで緩いつながり、古参も新参もという仕組みで、提供されるとよいと思います。

トークセッション

市川 明 (まじプロ実行委員会 委員長)

「まじプロ」は、協議会の2018年の「子育てメッセ」を契機に始まりました。そして、昨年度の「子育てメッセ」でその中間報告をさせていただきました。

「三小おやじの会」もやっているの、いろいろな子に関わっています。また、COCONOCO (ココノコ) の活動もしています。小金井市の不登校者数は、2019年小学生60名、中学生90名。学校以外でも教育を受けられる権利を考えて、不登校の子も含めた居場所づくりを考えたいと思います。

商工会にも入っているので、子どもたちが起業について触れる活動もしています。



大久保 美千子 (放課後こども教室コーディネーター)

森本先生の話の先に聞いていたら、午前中に会ったお母さんたちに地域子供会の大切さをお伝えすることができたの…と思いました。最近、町会で畑を借りることができたので、そこが子どもと大人の交流の場になるといいなときたいしています。

放課後子ども教室の事業目的はいろいろありますが、コロナ禍でお母さんたちの苦勞を聞いて、ますます大事だと思いました。学校での実施の利点は放課後ランドセルを背負ったまま来て遊べることです。遠くの友達も一緒に遊べます。1人で参加しても一緒に遊ぶお友達がいます。地域の人に見守られて遊べるという安心感があります。二小の放課後子ども教室も年々増えて、今年度から、校庭遊びが週5回になりました。学童児童が増える中、区別なく遊べる場所が安定的に用意されることが大切だと考えます。

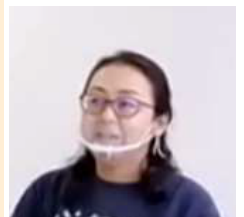


邦永 洋子 (NPO法人 こがねい子ども遊パーク)

自分の法人のミッションは「子どもとそこに関わる大人が生き生きできる地域をつくる」です。父が話してくれた昔の遊びは、ハラハラワクワクし、生きる力を育てるものでした。

プレーパークは古くて新しい。泥遊び、穴掘りなど昔ながらの遊びができ、旧来の地域の枠を超えた大人同士の新しいつながりの形です。私たちが企画する「ミニこがねい」はドイツで始まった子どもの仮想のまち。ここでは大人は口出し禁止。子どもの話を聞き、子どもの「やりたい」に寄り添いながら意思決定を支えるのが、大人の役割です。このまちで起こることは本当の生活でも起きること。子どもにコミュニケーションの問題を乗り越える力や自分でやりたいと言ったことに責任をとる力がつき、生き生きします。自由に自己決定でき、安心して失敗でき、周りに支える大人がいる。そんな子どもの人権が守られる場所を広げたいです。

コロナ禍で思うことは、本当に支援すべきところへのシフトチェンジが行政の委託事業だと難しいのかなと感じます。



水津： 小金井市において、居場所はどんなところかという調査結果が6割というアンケート結果があります。居場所と言うと、安全に預かってもらう所というイメージが強い。

かつて自然にあった居場所がないからこそ、地域のサードプレイスを考えていきたいです。

市川： 遊びは、「答え」が決まっているものではないので、自由な発想をさせるものであるかが、居場所では大事ですね。

森本： 取り組みが、学校と切り離せないこともあるので、手をつなぐことは必要でしょう。先生が地域の人を協力者と思ってくれるかどうか大事。地域も学校に期待しすぎて、クレーマーみたいになる場合もあるので、そちらの認識を持つ先生のほうが多いでしょう。

大久保： 保護者が保護者だけの役割でなく、地域の人一人なのだという意識を持てたらよいと思います。

邦永： 学校に来る人は学校の「お手伝い」という感覚の人も多い。上から下に降りてきたものをやらされているというのではなく、進んで自らやりたくなるような、参加の気楽さが大事。

水津： 学校という場所はインフラの中心だから使うのがいいけれど、私たちが常に言っている「子どもを地域で育てる」という言葉の『地域』には、学校も含まれていますよね。

大久保・市川： 先生も地域行事に来てくれるような相互交流があると良いですね。

Zoom参加者からの チャット質問など



●子どもを地域に出すというより、習い事が優先になっていることについて…

水津：ワクワク、信頼、自主性の「遊び」があるのだろうか？ ということを考えて欲しい。
森本：より効率的な学力や体力を身につけることを優先する大人がいるのも現実です。でも同時に 大人たちがサードプレイスを作る力がまだまだある、残っていると思います。ネット上でもどんどんできています。

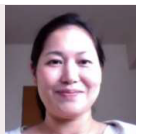
●コロナ禍において家の中でゲーム・ネットの世界でつながっているだけではないか？…

市川：この先社会に出てどういう影響があるのか気になりますね。
森本：ネットというのは、新しいものを生み出す力もあって、今は、SNSの発展、リアルとバーチャルが混在している社会です。バーチャルからリアルに発展する可能性もあるかもしれない。
邦永：大人が、橋渡ししてやると、ネットから会話に変えて、リアルにつなげる手伝いをしてあげることができると思います。
森本：魚のさばき方をYouTubeを見ていた子どもに対し、母親が一緒に買い物して、一緒にさばいた話がありました。普通の人が無気ない生活のことを発信しているので、リアルの体験に繋げることができますよね。ネット・ゲームがリアルへの入り口になることも期待できます。

最後に

水津：アンケートでは年齢が上がるほど、ぼーっとしたい、1人でいたいという結果も出ているので、人と関わりたくないのか、関わり合うのがつらい社会になっているのか考えないといけないですね。

小金井子育て支援課 富田課長より挨拶：
大変勉強になりました。行政では限界があることもありますが、皆さんと協力してコロナ禍でもトライ&エラーで進めていきたいです。



森本：地域は千差万別です。いろいろな考え方の人がいるので、その違いを認め合い、考え合う「場」を持つことが大事です。それが、地域のサードプレイスにもなります。その地域らしいサードスペースを！



Zoom参加者からの感想を一部、ご紹介します

信頼というキーワードに共感しました。大人が子供を管理し過ぎていて、信頼できていないため、子供を自由に遊びに行かせられていないのかと思います。

居場所自体もイベントが計画されていて子どもの自由度が少ないから、子供としては参加しても楽しくないのでは？プレーパークのような自由度の高い場所は個人的には魅力に感じます。

ただ、親としては安全面は気になってしまいます。自分が子供の頃は親の知らないところで危険な遊びも色々やっていましたが、いざ自分の子供となると不安が先立ってしまいます。そのあたりは親の意識についても何か対策が必要なのかもしれないと思いました。

親が安心して、でも子どもは自由に遊べる居場所？

塾に通わせたい親が多いというご意見もありましたが、共働き家庭で学童が4年生で卒所になってしまうと、仕方なく塾に通わせる親も多いのではないかと想像します。

大人が子供に近づきすぎず離れすぎずの距離間で関われる居場所、子供が思わず行きたくなってしまうような居場所があるとよいと思います。

初めて参加しました。地域の子どもの居場所が、安心と安全だけを目指しがちという指摘に納得しました。

子どもが自分でやりたいことを決める、遊びを作ることができる、自治能力を持てる環境を作っていききたいなと思いました。

「子どもの話を聞く」、大切ですね。PTAの話が聞けたのもとても良かったです。

貴重な機会をありがとうございました。森本先生のお話では、日々活動の中で感じていることを明確にできた部分がありました。

また、小金井の取り組みは子どもに関わる各団体との横のつながりが素晴らしいと思いました。

サイトがさらにそれを活動当事者以外にも広げているという点も、地域に魅力を感じました。

Zoomが聞き取りづらい場面があったのが残念でしたが、Zoomだったから他地域から参加できたという点で、このメッセージを実現していただけて感謝しております。

サイトの紹介があるとは思ってなかったので、この機会に詳細を知ることができてよかったです。今後も楽しみにになりました。

トークセッションでは、子育て真っ最中のお母さん方のご意見も聞けるとよかったですかなと思いました。

音声途切れ途切れになり、内容が聞き取れなかったことがとても残念です。この企画にご尽力頂いた皆様に感謝致します。ありがとうございました。次の企画も楽しみにしています。

子どもの居場所に関心があったので参加しました。講師のお話からは改めて気づかされることがありました。特に、大人の意図的ではない居場所をつくることの大切さと難しさを痛感しました。

アンケートへの回答頂き、ありがとうございました。



今後に向けて あとがき

今年の「子育てメッセこがねい」は新型コロナウイルスの影響で、開催そのものが危ぶまれた中、みんなで知恵を絞ってインターネットを使用した学習会を行うことになりました。

テーマとしてはこの数年話し合ってきた『子どもの居場所』について、さらに専門的な見地から学ぼうということで、長年『子ども白書』の編集に携わってこられた埼玉大学講師の森本扶さんを迎え、子どもの居場所とはどういうものなのか、なぜ必要なのか、を社会的背景からお話いただき、たくさんの方と共有できたと思います。

遊びの存在や、大人との信頼関係、異年齢の関係など、子どもの居場所に必要なキーワードをたくさんいただけたと思います。

今年度「小金井市子ども子育て会議」において『子どもの居場所部会』を設置することになりました。ここでは小金井市で『子どもの居場所』をどう考え、作っていくのかというビジョンを話し合える場になると思います。その部会に今回学習したことを活かし、より具体的な話し合いを行っていきたいと思います。

「子育てメッセこがねい」では小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会に加入の皆様と、今後も課題やテーマを見つけるとともに学び合える場としていきたいと考えています。今後ともご協力お願いいたします。

最後に、今回難しい環境にもかかわらず、たくさんの方にご協力いただき『第7回子育てメッセこがねい』を開催できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会会長 水津由紀



森本先生の自己紹介の中でも、あとがきでも触れた、「子ども白書」

編著者 日本子どもを守る会

発行者 武村正治

ISDN 978-4-7803-1101-3 C0002